

全国農業新聞

2013年(平成25年) 8月30日 (金曜日) 毎週金曜日発行

発行所 全国農業会議所
〒102-0084 東京都千代田区二番町 9-8
中央労働基準協会ビル ☎ 03-6910-1130
©全国農業会議所 2013
ホームページ <http://www.nca.or.jp/shinbun>

購読料 1か月600円・年間7,200円(税込み)
お申し込みは、お近くの農業委員会へどうぞ

新規 線虫防除剤

ネマキック

●線虫問題にケリをつける!! 粒剤

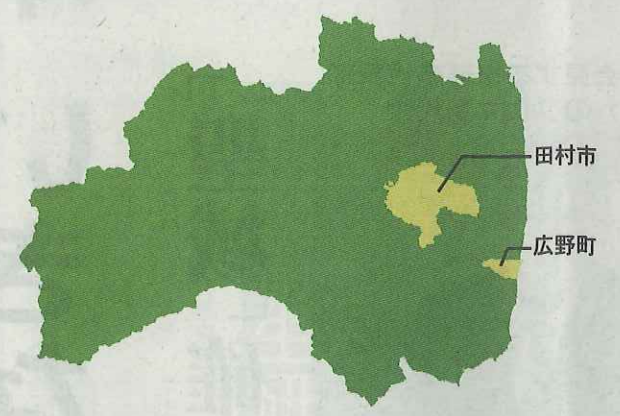
アグロ カネショ株式会社

今週の主な記事	
2	TPP会合 日本正念場
3	新型インフルエンザ対策
4	モチベーション高める
5	籾米給与して肉質向上
7	47支局 三重県・長崎県
8	体にうれしいスムージー
10	桑茶を飲む食習慣を
3	深層 米消費減の中 政策議論
4	流通 経営の受容力を高める
6	市況 9月の農畜産物市況は

害獣かす脅再開農営

原発被災地の農家は今

東京電力福島第1原発事故から2年半。まだ多くの人たちが仮設住宅で暮らし、大量の汚染水を流し続けている。政府は今月初め、避難指示区域の再編を予定より1年4か月遅れでようやく終えた。しかし解除には至らず、「帰還困難」など制限区域が広範囲に残る。指示区域周辺では農業が再開されつつあるが、イノシシなどの鳥獣害が戻ってきた農家を脅かす。出来秋を控え、風評被害の再来も心配だ。原発被災地の今を追った。



作付け地に被害集中

除染進む田村市 水田36%で米作り

「電気柵がなければとて 取り手があらず、駆除代2万円が支払われるだけだ。シシのほかタヌキやハクビシンなどが避難中、確実に増えた。皆に先駆けて始めた私の圃場が集中的に狙われている感じがする」

福島県田村市都路町で農業を再開した農業委員の吉田修一さん(58)は鳥獣害の脅威をこう話す。

吉田さんの圃場は事故原発から20キロ圏の警戒区域までわずかに200メートルという場所。獣害の増加要因として①人の不在②ハンターの減少③猪肉の放射能汚染――を挙げる。1.5千円近くで売れた猪肉も今では引き

風評被害再び

広野町 帰還率

こうした状況は米農家360戸(農業センサス)のうち100戸(11.0%)が米作りを再開した浜通りの広野町でも見られる。高齢や避難中などを理由に5人から耕作を依頼され、7人から耕作を依頼された農業委員会の大和久司会長(63)は「稲の生育は順調だが、イノシシが増えているのが気掛かり」と話す。

同様に農家10人から頼まれたという横田和希さん(33)は「早く戻ってきてほしい。このままでは耕作放棄地がさらに増えてしまう」と現段階での農家の帰還率の低さを嘆く。横田さんの心配はこれだけではない。「せっかく作っても適正に売れるか」だ。「広野の米だから500円安、1000円安は絶対ダメ」と業者にクギを刺している。と風評被害再発を恐れる。



この春から市の農家の約3割が戻り、36%の水田で米作りが再開された。

農家の7割が戻らない状況について門電氣柵の張られた水田を示す吉田修一さん

この点は田村市だ。門馬課長は「山などを受ける1000米は恐らく出ない検査も実施しているし検出下限値の25倍値が出たときが心配す。

都路町は農業のほかな自然環境を利用

挑戦 農業委員会

岩手・一戸町

「農業委員だから取り組んだというわけではありません。地域農業を支える一人として行く末を思い、次代にどう引き継いでいくかを考えたからです」

岩手県一戸町で農業委員を3期務める澤口松男さん(56)は「人・農地プラン」にかかわった経緯をこう話す。さらに「役場から指導されたからやるのでは。農家自ら動かなければ課題解決にはなりません」と熱く

人・農地プラン 全委員、策定に関与

耕地面積の1割強に達する。担い手不足も深刻で、今年2月には町出資により(株)一戸夢ファームを設立(4月開校)、新規就農者確保に本腰を入れ始めたばかりだ。

プランは13地区で策定され、町全域をカバーする。青年就農給付金の受給予定者が12人おり、一戸夢ファームにこの春入校した4人の研修生も含まれる。

農業委員会(柴田勉会長)はプラン策定に積極的に関与する方針を総会で決定。17人の委員全員が担当地区のプラン検討の

町会議に出席し、発言することを申し合わせた。町の担当者と呼んで勉強会も開いた。

澤口さんが参画した宇別地区は「遊休農地の活用」を基本に据えた。2011年度から始めた農地利用集積円滑化事業で



現代版結い確立を

02年には経営を法人化。05年には高泌乳牛に不可欠な完全

桑茶を飲む習慣を

鹿児島・始良市 青木 基暢さん

「桑葉は血糖値抑制」の研究結果に着目

長く養蚕で使われてきた桑葉がカルシウムや亜鉛に富み、血糖値抑制などの機能を持つとの研究結果が発表されている。鹿児島県始良市の青木基暢さん(40)はこの点に着目、耕作放棄地などを利用して栽培する一方、お茶やサプリメントに加工して販売。1月には県内の製茶企業や農家で振興会を立ち上げた。緑茶並みに桑葉をとる食習慣を根づかせるのが夢だ。

耕作放棄地など利用し栽培 お茶やサプリメントに

「検査値改善」

2世紀の中国の書物に桑葉の薬効の記述がある。日本では鎌倉時代、茶を飲んで検査値が改善した青木さんが桑に「生記」の中で桑茶の用い方や飲水病(糖尿病)への効能に言及している。

のと聞かれた同僚もいます。あくまで個人の感想ですが」と話す。

店をしていた妻の実家がアントシアニン(健康に良いとされる色素)が豊富な桑の実の商品化を検討していたこと。しかし果実は生産性が低く、興味は葉に。「葉なら収量も多く、事業化に向く」と判断した。

桑を楽しむ文化も発信

2004年、農業委員だった株のほか、挿し木などを通じて養蚕を廃業した農家から畑12畝を借りて始めた。栽培法などは収量品種を中心に1・7当時から県畜産試験場や農家から聞いた。植わ

県内の製茶会社や 農家と振興会設立

資源の持続的利用や地域活性化を目的に今年1月「かごしま桑振興会」(諸木逸郎会長)を設立した。会員は製茶会社や農業法人など7社と生産農家二十数人。青木さんは事務局を担当する。

「普段お茶を飲むように桑茶を飲み、桑製品を食べるような食習慣を築き上げるのが夢です」と話満々だ。



各地の話題



大きく育った桑の葉を示す青木さん

新農人伝

商品開発が進む一方で、ヤルゴイを核にしたチーズ文化の発信や交流事業も広がっていきました。なかでも、当初は想定していなかった事業のひとつに牧場ウエディングがあります。

きっかけは、大丸神戸店のお誘いで弓削牧場でのクリスマスディナー企画を始めたことです。その後1995年(平成7)、大丸文化教室でチーズづくりセミナーの講師を依頼されました。

牧場ウエディングを開始



その後、クリスマスディナー開催時から担当だった大丸社員がフライダル部署に異動し、「ここで結婚式をやりたい」とおっしゃったのです。ほぼ同じ時期、弓削牧場に通ったことだ。若いお客様からも「ここで結婚式を挙げたい」と依頼を受けました。牧場でやるからには農業に

大丸神戸店と連携

きました。私たち夫婦と同様に、若いおふたりもこの牧場を自己表現の場を選んでくれたのだと思いました。

1年目、大丸の広告に応募いただいた6組が牧場結婚式を挙げました。式のスタイルは相手のご希望に添い、ひとつひとつオリジナルです。共通しているのは、ハーブを育ててハーブのバジンロードを用意すること。ヤルゴイを披露宴会場にチーズとハーブのフルメニューを味わっていたこと。希望があれば、牧場内に記念植樹してもらいます。

陶箕 谷 酪農場
旬レチェール・ユゲ
弓削 忠生
和子

9

ティンエ、ソムリエを講師に、牛乳、チーズ、ハーブを使ったパンづくりやお菓子づくり教室、弓削牧場のチーズとワインの相性講座などを企画しました。これを機に「カルチ

手づくりの牧場結婚式は予想以上に好評で、2010年、牧場結婚式を挙げた方が100組を超えました。挙式したご夫婦の多くはその後もお付き合いが続いています。牧場の心強いサポーターです。

構成 榎田みどり